

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2018（2019年更新版）に準拠して作成

カルシウム剤

日本薬局方

乳酸カルシウム水和物

Calcium Lactate Hydrate JP

（乳酸カルシウム水和物「ケンエー」原末）

剤形	散剤、細粒剤
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	1g 中 日局 乳酸カルシウム水和物 1g
一般名	和名：乳酸カルシウム水和物（JAN） 洋名：Calcium Lactate Hydrate（JAN）
製造販売承認年月日	製造販売承認年月日：2023年6月29日（販売名変更による）
薬価基準収載・ 販売開始年月日	薬価基準収載年月日：2024年6月14日（販売名変更による） 販売開始年月日：1986年3月
製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：健栄製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	健栄製薬株式会社 学術情報部 TEL (06) 6231-5822 FAX (06) 6204-0750 医療関係者向けホームページ https://www.kenei-pharm.com/medical/

本 IF は 2024 年 6 月作成（第 1 版）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の情報は、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構の医薬品情報検索ページで確認してください。

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として、医療用医薬品添付文書（以下、添付文書）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合があり、製薬企業の医薬情報担当者（以下、MR）等への情報の追加請求や質疑により情報を補完してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための項目リストとして医薬品インタビューフォーム（以下、I F と略す）が誕生した。

1988年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬）学術第2小委員会がI Fの位置付け、I F記載様式、I F記載要領を策定し、その後1998年に日病薬学術第3小委員会が、2008年、2013年に日病薬医薬情報委員会がI F記載要領の改訂を行ってきた。

I F記載要領2008以降、I FはPDF等の電子的データとして提供することが原則となった。これにより、添付文書の主要な改訂があった場合に改訂の根拠データを追加したI Fが速やかに提供されることとなった。最新版のI Fは、医薬品医療機器総合機構（以下、PMDA）の医療用医薬品情報検索のページ（<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>）にて公開されている。日病薬では、2009年より新医薬品のI Fの情報を検討する組織として「インタビューフォーム検討会」を設置し、個々のI Fが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討している。

2019年の添付文書記載要領の変更に合わせ、I F記載要領2018が公表され、今般「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」に関連する情報整備のため、その更新版を策定した。

2. I Fとは

I Fは「添付文書等の情報を補完し、医師・薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

I Fに記載する項目配列は日病薬が策定したI F記載要領に準拠し、一部の例外を除き承認の範囲内の情報が記載される。ただし、製薬企業の機密等に関わるもの及び利用者自らが評価・判断・提供すべき事項等はI Fの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された

I Fは、利用者自らが評価・判断・臨床適用するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

I Fの提供は電子データを基本とし、製薬企業での製本は必須ではない。

3. I Fの利用にあたって

電子媒体のI Fは、PMDAの医療用医薬品情報検索のページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従ってI Fを作成・提供するが、I Fの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やI F作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより利用者自らが内容を充実させ、I Fの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I Fが改訂されるまでの間は、製薬企業が提供する改訂内容を明らかにした文書等、あるいは各種の医薬品情報提供サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、I Fの使用にあたっては、最新の添付文書をPMDAの医薬品医療機器情報検索のページで確認する必要がある。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「V. 5. 臨床成績」や「XII. 参考資料」、
「XIII. 備考」に関する項目等は承認を受けていない情報が含まれることがあり、その取り扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

I Fを日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用していただきたい。I Fは日病薬の要請を受けて、当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業が作成・提供する、医薬品適正使用のための学術資料であるとの位置づけだが、記載・表現には薬機法の広告規則や医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン、製薬協コード・オブ・プラクティス等の制約を一定程度受けざるを得ない。販売情報提供活動ガイドラインでは、未承認薬や承認外の用法等に関する情報提供について、製薬企業が医療従事者からの求めに応じて行うことは差し支えないとされており、MR等へのインタビューや自らの文献調査などにより、利用者自らがI Fの内容を充実させるべきものであることを認識しておかなければならない。製薬企業から得られる情報の科学的根拠を確認し、その客観性を見抜き、医療現場における適正使用を確保することは薬剤師の本務であり、I Fを活用して日常業務を更に価値あるものにしていただきたい。

—目次—

I. 概要に関する項目	1
1. 開発の経緯	1
2. 製品の治療学的特性	1
3. 製品の製剤学的特性	1
4. 適正使用に関して周知すべき特性	1
5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項	1
6. RMPの概要	1
II. 名称に関する項目	2
1. 販売名	2
2. 一般名	2
3. 構造式又は示性式	2
4. 分子式及び分子量	2
5. 化学名（命名法）又は本質	2
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	2
III. 有効成分に関する項目	3
1. 物理化学的性質	3
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3
3. 有効成分の確認試験法，定量法	3
IV. 製剤に関する項目	4
1. 剤形	4
2. 製剤の組成	4
3. 添付溶解液の組成及び容量	4
4. 力価	4
5. 混入する可能性のある夾雑物	5
6. 製剤の各種条件下における安定性	5
7. 調製法及び溶解後の安定性	5
8. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	5
9. 溶出性	5
10. 容器・包装	5
11. 別途提供される資材類	6
12. その他	6
V. 治療に関する項目	7
1. 効能又は効果	7
2. 効能又は効果に関連する注意	7
3. 用法及び用量	7

4.	用法及び用量に関連する注意	7
5.	臨床成績	7
VI. 薬効薬理に関する項目		9
1.	薬理的に関連ある化合物又は化合物群	9
2.	薬理作用	9
VII. 薬物動態に関する項目		10
1.	血中濃度の推移	10
2.	薬物速度論的パラメータ	10
3.	母集団（ポピュレーション）解析	11
4.	吸収	11
5.	分布	11
6.	代謝	11
7.	排泄	12
8.	トランスポーターに関する情報	12
9.	透析等による除去率	12
10.	特定の背景を有する患者	12
11.	その他	12
VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目		13
1.	警告内容とその理由	13
2.	禁忌内容とその理由	13
3.	効能又は効果に関連する注意とその理由	13
4.	用法及び用量に関連する注意とその理由	13
5.	重要な基本的注意とその理由	13
6.	特定の背景を有する患者に関する注意	13
7.	相互作用	14
8.	副作用	15
9.	臨床検査結果に及ぼす影響	15
10.	過量投与	16
11.	適用上の注意	16
12.	その他の注意	16
IX. 非臨床試験に関する項目		17
1.	薬理試験	17
2.	毒性試験	17
X. 管理的事項に関する項目		18
1.	規制区分	18
2.	有効期間	18

3.	包装状態での貯法	18
4.	取扱い上の注意	18
5.	患者向け資材	18
6.	同一成分・同効薬	18
7.	国際誕生年月日	18
8.	製造販売承認年月日及び承認番号，薬価基準収載年月日，販売開始年月日	18
9.	効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	19
10.	再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容	19
11.	再審査期間	19
12.	投薬期間制限に関する情報	19
13.	各種コード	19
14.	保険給付上の注意	19

X I . 文 献 **20**

1.	引用文献	20
2.	その他の参考文献	20

X II . 参 考 資 料 **21**

1.	主な外国での発売状況	21
2.	海外における臨床支援情報	21

X III . 備 考 **22**

1.	調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報	22
2.	その他の関連資料	22

略語表

なし（個別に各項目において解説する。）

I . 概要に関する項目

1. 開発の経緯

1909 年、Moncany などによる臨床報告が見られ、可溶性カルシウム剤として用いられた。

2. 製品の治療学的特性

(1) 本剤は、低カルシウム血症に起因するテタニーの改善、妊婦・産婦の骨軟化症及び発育期におけるカルシウム補給に用いる。(V. 1. 「効能又は効果」参照)

3. 製品の製剤学的特性

(1) 分包品は、分包機による分包の手間が不要で、院内製剤業務の省力化が可能である。(IV. 10. (2) 「包装」参照)

4. 適正使用に関して周知すべき特性

該当しない

5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項

(1) 承認条件

該当しない

(2) 流通・使用上の制限事項

該当しない

6. RMPの概要

該当しない

II. 名称に関する項目

1. 販売名

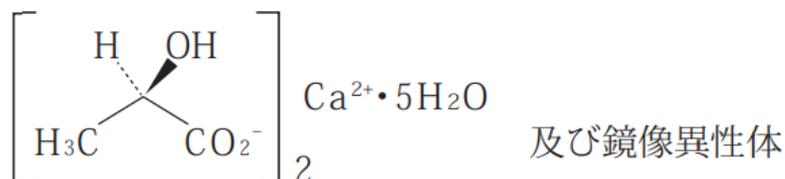
- (1) 和名： 乳酸カルシウム水和物「ケンエー」原末
- (2) 洋名： Calcium Lactate Hydrate 「KENEI」 Powder
- (3) 名称の由来：

2. 一般名

- (1) 和名（命名法）： 乳酸カルシウム水和物（JAN）
- (2) 洋名（命名法）： Calcium Lactate Hydrate（JAN）
- (3) ステム（stem）： 不明

3. 構造式又は示性式

構造式：



4. 分子式及び分子量

分子式： $\text{C}_6\text{H}_{10}\text{CaO}_6 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$

分子量： 308.29

5. 化学名（命名法）又は本質

Monocalcium bis [(2*RS*)-2-hydroxypropanoate] pentahydrate

6. 慣用名，別名，略号，記号番号

該当しない

Ⅲ. 有効成分に関する項目

(本品の有効成分である日局乳酸カルシウム水和物について記述する。)

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

本品は白色の粉末又は粒で、においはなく、味は僅かに酸味がある。

(2) 溶解性

本品 1g は水 20mL に徐々に溶け、エタノール (95) に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点 (分解点), 沸点, 凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性¹⁾

本品は常温でやや風解し、120℃で無水物となる。また、ポリエチレン袋、缶入の包装形態で室温 48 ヶ月保存し定量 (日局キレート滴定法) した場合、残存率約 98%を示し、外観に変化はみられない。

3. 有効成分の確認試験法, 定量法

確認試験法: 日局乳酸カルシウム水和物の確認試験による。

定量法: 日局乳酸カルシウム水和物の定量法による。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別

散剤、細粒剤

(2) 製剤の外観及び性状

本品は白色の粉末又は粒で、においはなく、味は僅かに酸味がある。

(3) 識別コード

表示部位：分包品

表示内容：KE CAL

(4) 製剤の物性

該当資料なし

(5) その他

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量及び添加剤

1g 中 日局 乳酸カルシウム水和物 1g

(2) 電解質等の濃度

該当資料なし

(3) 熱量

該当しない

3. 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

4. 力価

該当しない

5. 混入する可能性のある夾雑物

酸又はアルカリ、マグネシウム又はアルカリ金属、揮発性脂肪酸（純度試験により規制）

6. 製剤の各種条件下における安定性

500g（粉末）

最終包装製品を用いた長期保存試験（室温、4年間）の結果、通常の市場流通下において4年間安定であることが確認された²⁾。

その他（細粒状）

最終包装製品を用いた加速試験（40℃・75%RH・6か月）の結果、通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された³⁾。

7. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

8. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

9. 溶出性

該当しない

10. 容器・包装

(1) 注意が必要な容器・包装，外観が特殊な容器・包装に関する情報

該当しない

(2) 包装

粉 末 バラ：500 g（ポリプロピレン袋）

細粒状 バラ：500 g（ポリプロピレン袋）

分包：1g×1050包、1g×2750包、2g×1750包

(3) 予備容量

該当しない

(4) 容器の材質

包装		材質
500g	外箱	紙
	内袋	ポリプロピレン
分包品	外箱	紙
	内袋	PET/ポリエチレン/アルミ箔/ポリエチレン複合フィルム
	分包フィルム	セロファン/ポリエチレン複合フィルム

11. 別途提供される資材類

該当しない

12. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

- 低カルシウム血症に起因する下記症候の改善
テタニー
- 下記代謝性骨疾患におけるカルシウム補給
妊婦・産婦の骨軟化症
- 発育期におけるカルシウム補給

2. 効能又は効果に関連する注意

設定されていない

3. 用法及び用量

(1) 用法及び用量の解説

乳酸カルシウム水和物として、通常成人 1 回 1g を 1 日 2～5 回経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

(2) 用法及び用量の設定経緯・根拠

該当資料なし

4. 用法及び用量に関連する注意

設定されていない

5. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床薬理試験

該当資料なし

(3) 用量反応探索試験

該当資料なし

(4) 検証的試験

1) 有効性検証試験

該当資料なし

2) 安全性試験

該当資料なし

(5) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査（一般使用成績調査，特定使用成績調査，使用成績比較調査），製造販売後データベース調査，製造販売後臨床試験の内容

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した調査・試験の概要

該当資料なし

(7) その他

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

カルシウム剤：塩化カルシウム、グルコン酸カルシウム、リン酸水素カルシウム、アスパラギン酸カルシウム 等

注意：関連のある化合物の効能・効果等は、最新の電子添文を参照すること。

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

作用機序：血清カルシウム値が低下したとき、カルシウム値を上昇させる。血漿中カルシウムイオンが欠乏すると神経系及び筋肉系の興奮性がたかまって疲労しやすくなり、横紋筋は痙攣を起こす。本薬の投与により鎮静、痙攣軽減の作用を示す。カルシウムは無機栄養素としても重要で、歯や骨の主成分である⁴⁾。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(3) 中毒域

該当資料なし

(4) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) 消失速度定数

該当資料なし

(4) クリアランス

該当資料なし

(5) 分布容積

該当資料なし

(6) その他

該当資料なし

3. 母集団（ポピュレーション）解析

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) パラメータ変動要因

該当資料なし

4. 吸収

経口投与において、投与量の約 33%が消化管より吸収される。

吸収は年齢と共に減少するが、体内でカルシウムが不足した時は上昇し、また、ビタミン D の活性代謝物 1,25-dihydrocholecalciferol も吸収を増加させる⁴⁾。

5. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

移行する⁴⁾。

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

(6) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

6. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP等）の分子種，寄与率

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び活性比，存在比率

該当資料なし

7. 排泄

尿、胆汁、腠液、汗、唾液、ふん便、母乳など種々の経路より排泄され、この内尿中には毎日400mg前後が排泄される⁴⁾。

8. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

9. 透析等による除去率

該当資料なし

10. 特定の背景を有する患者

該当資料なし

11. その他

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

設定されていない

2. 禁忌内容とその理由

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

2.1 高カルシウム血症の患者 [症状を悪化させることがある。] [8.、9.1.1 参照]

2.2 腎結石のある患者 [症状を悪化させることがある。]

2.3 重篤な腎不全のある患者 [9.2.1 参照]

3. 効能又は効果に関連する注意とその理由

設定されていない

4. 用法及び用量に関連する注意とその理由

設定されていない

5. 重要な基本的注意とその理由

8. 重要な基本的注意

長期投与により血中及び尿中カルシウムが高値になることがあるので、長期投与する場合には定期的に血中又は尿中カルシウムを検査することが望ましい。[2.1、9.1.1、10.2 参照]

6. 特定の背景を有する患者に関する注意

(1) 合併症・既往歴等のある患者

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 高カルシウム血症があらわれやすい病態の患者

[2.1、8.、10.2 参照]

(2) 腎機能障害患者

9.2 腎機能障害患者

9.2.1 重篤な腎不全のある患者

投与しないこと。腎不全を悪化させることがある。[2.3 参照]

(3) 肝機能障害患者

設定されていない

(4) 生殖能を有する者

設定されていない

(5) 妊婦

設定されていない

(6) 授乳婦

設定されていない

(7) 小児等

9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験を実施していない。

(8) 高齢者

9.8 高齢者

減量するなど注意すること。一般に生理機能が低下している。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

設定されていない

(2) 併用注意とその理由

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ジギタリス製剤 ジゴキシン等	ジギタリス中毒（不整脈、ショック）があらわれることがある。定期的にジギタリス中毒の有無、心電図検査を行い、必要に応じてジギタリス製剤の血中濃度を測定し、異常が認められた場合には、ジギタリス製剤を減量若しくは中止する。	ジギタリス製剤の作用を増強する。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系抗生物質 テトラサイクリン ミノサイクリン等	テトラサイクリン系抗生物質の作用が減弱するおそれがあるので、投与間隔をできるだけあけるなど注意すること。	カルシウムイオンはキレート化によりテトラサイクリン系抗生物質の吸収を阻害する。
ニューキノロン系抗菌剤 シプロフロキサシン塩酸塩 ノルフロキサシン トスフロキサシントシル酸塩水和物等	ニューキノロン系抗菌剤の作用が減弱するおそれがあるので、投与間隔をできるだけあけるなど注意すること。	カルシウムイオンはキレート化によりニューキノロン系抗菌剤の吸収を阻害し、血中濃度を低下させる。
活性型ビタミンD製剤 アルファカルシドール カルシトリオール エルデカルシトール等 [8.、9.1.1参照]	高カルシウム血症があらわれやすい。	腸管でのカルシウムの吸収が促進される。

8. 副作用

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(1) 重大な副作用と初期症状

設定されていない

(2) その他の副作用

11.2 その他の副作用

	頻度不明
消化器	便秘
その他	高カルシウム血症 ^{注)} 、結石症 ^{注)}

注) 長期投与によりあらわれることがある。

9. 臨床検査結果に及ぼす影響

設定されていない

10. 過量投与

設定されていない

11. 適用上の注意

設定されていない

12. その他の注意

(1) 臨床使用に基づく情報

設定されていない

(2) 非臨床試験に基づく情報

設定されていない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験

該当資料なし

(2) 安全性薬理試験

該当資料なし

(3) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 遺伝毒性試験

該当資料なし

(4) がん原性試験

該当資料なし

(5) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(6) 局所刺激性試験

該当資料なし

(7) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤：該当しない（処方箋医薬品以外の医薬品である）

有効成分：該当しない

2. 有効期間

有効期間：500g（粉末）4年

その他（細粒状）3年

3. 包装状態での貯法

貯法：室温保存

4. 取扱い上の注意

該当しない

5. 患者向け資材

患者向医薬品ガイド：なし

くすりのしおり：なし

その他患者向け資材：なし

6. 同一成分・同効薬

日局乳酸カルシウム水和物（各社）

7. 国際誕生年月日

不明

8. 製造販売承認年月日及び承認番号，薬価基準収載年月日，販売開始年月日

履歴	製造販売承認 年月日	承認番号	薬価基準収載 年月日	販売開始 年月日
旧販売名 乳酸カルシウム「ケンエー」 ^{注)}	1986年3月8日	16100AMZ02167	1986年3月	1986年3月
販売名変更 乳酸カルシウム水和物 「ケンエー」原末	2023年6月29日	30500AMX00136	2024年6月14日	1986年3月

注) 経過措置期間終了 2025年3月31日

9. 効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

10. 再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容

1986年12月3日付 医薬品薬効再評価結果その26 公示

11. 再審査期間

該当しない

12. 投薬期間制限に関する情報

本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

13. 各種コード

販売名	厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード	個別医薬品コード (YJコード)	HOT (9桁) 番号	レセプト電算 処理システム 用コード
乳酸カルシウム水和物 「ケンエー」原末	3211001X1300	3211001X1300	107266209	620726609

(旧販売名)

販売名	厚生労働省薬価 基準収載医薬品 コード	個別医薬品コード (YJコード)	HOT (9桁) 番号	レセプト電算 処理システム 用コード
乳酸カルシウム 「ケンエー」注)	3211001X1059	3211001X1059	107266209	620000712

注) 経過措置期間終了 2025年3月31日

14. 保険給付上の注意

該当しない

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 財団法人 日本薬剤師研修センター 編：日本薬局方 医薬品情報 2001, p1335-1336, 株式会社じほう, 2001.
- 2) 健栄製薬株式会社 社内資料：乳酸カルシウム水和物の経時安定性について
- 3) 健栄製薬株式会社 社内資料：乳酸カルシウム水和物（細粒状）の経時安定性について
- 4) 第十八改正日本薬局方解説書. 廣川書店. 2021 : C-3937-3940

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II . 参考資料

1. 主な外国での発売状況

海外では発売されていない（2024年6月時点）

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

XⅢ. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

(1) 粉碎

該当資料なし

(2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

該当資料なし

2. その他の関連資料

- ・ 健栄製薬株式会社医療関係者向け WEB サイト

<https://www.kenei-pharm.com/medical/>